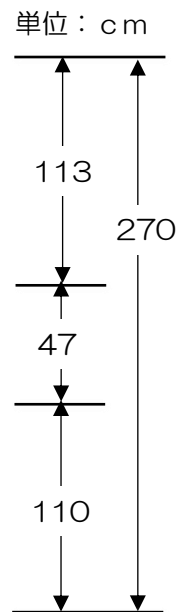


【01】大田市大田町加土 法蔵寺（宮本 大07/0-列-22） 井戸明府之碑

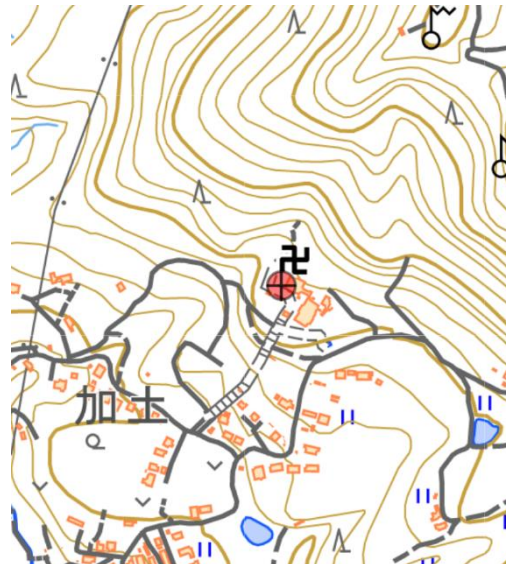
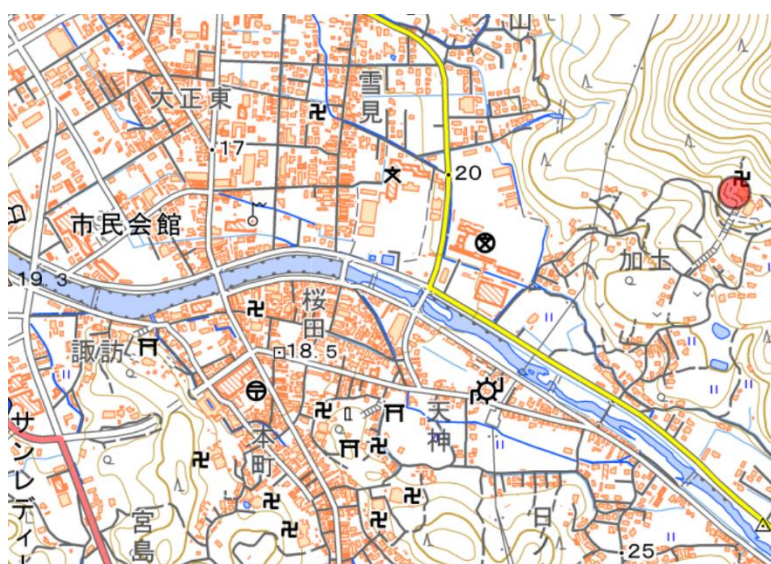
所在地 大田市大田町加土 法蔵寺本堂左
 北緯35°11'40.06" / 東経132°30'53.14"



碑石最大幅 42 / 奥行最大 33
 台石1段目最大幅 86 / 奥行最大 65
 台石2段目（石組）幅最大 140 / 奥行最大 135

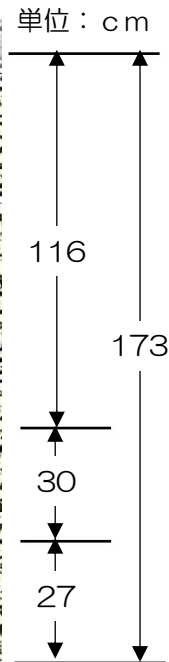
【建立年】昭和3年（1928）
 【建立者】加土区民一同
 「碑石前面」井戸明府之碑 / 右に「日城謹書」左に「加土区民一同」
 「碑石右面」昭和三年十月十五日
 「碑石左面」日城代 / 西本豊蔵 / 有藤東蔵 / 山本平吉 / 松本勘造 / □□□□□
 「碑石裏面」□□ / 七十一老 / 世はかわり / □□□れ中の□□り / は□□□ / きみのみ□□□ / □□□しかわらじ
 「台石」ほかには文字なし

〔調査の経過〕
 碑石の文字は表面が粗くやせていることもあって「井戸明府之碑」以外の文字は読めなくなっている。表記は「大田碑石散歩」（三谷晃 / 昭和52年）を転記した。碑石はすらりとした形でその下に球形の台石を置き、最下段は小さい石を何十個も組み合わせて110cmもの高さに積み上げてある。登山道にあるケルンを想起させる。碑石の前に踏み石を置き、周囲は円形に石で囲んである。不安定に見えるが、2018年の島根県西部地震でも全く被害がなかった。
 （調査日2020年11月26日）



【02】大田市大田町宮島 大願寺（宮本 大 05/㊦-㊦-20） 井戸正朋碑

所在地 大田市大田町宮島 大願寺山門前
 北緯 35° 11' 22.65" / 東経 132° 30' 19.35"



碑石最大幅 83 / 奥行き最大 53
 台石1段目最大幅 120 / 奥行最大 95
 台石2段目幅 153 / 奥行 136

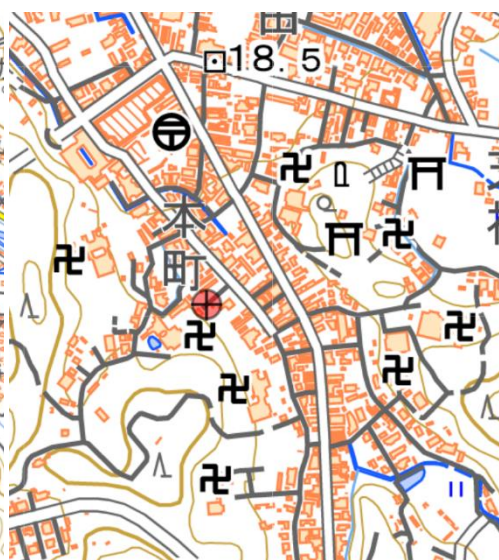
〔調査の経過〕
 大田町の本通りの1本西側の道路沿いに4つの寺院が並んでいるが、その北から2番目が大願寺。その南側の明善寺にも井戸公碑があり、約130㊦の間に2基の井戸公碑があることになる。

〔碑石前面〕井戸正朋碑
 〔碑石裏面〕(右下)小谷梅吉 / 外世話人中(中央)享保十八丑年五月二十六日 / 當山十四世嚴誉代 / 明治廿八年十一月
 〔台石〕ほかには文字なし

〔建立年〕明治28年(1896)
 〔建立者〕世話人中

碑は大願寺に上がる石段の最上部の右手に、参拝者を出迎えるように建っている。きれいな卵型の自然石。前の植木が大きくなってきたので真正面からは見えないが、碑石の表面も裏面もはつきりと読める。「正朋」と彫った碑はどちらかというとな少ないが、ここでは「正朋」としている。明治28年ごろは正朋が主流だったのだろうか。

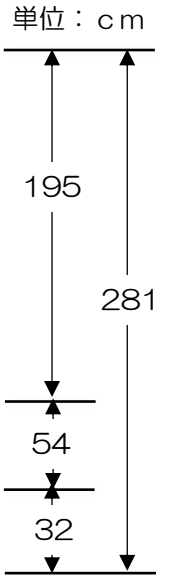
(調査日 2020年11月26日)



【03】大田市大田町蛭子 明善寺（宮本 大 06/㊦-㊦-21） 井戸正朋公碑

所在地 大田市大田町蛭子 明善寺車参道右手

北緯 35° 11' 20.71" / 東経 132° 30' 22.11" (国土地理院)



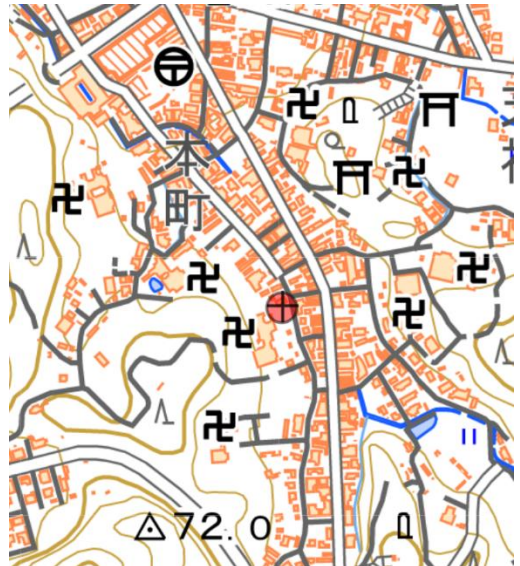
碑石最大幅 105 / 奥行最大 47
 台石1段目最大幅 146 / 奥行最大 99
 台石2段目幅 297 / 奥行 150

〔調査の経過〕
 大願寺から約130以南にある明善寺。正面の石段の右側に、車で本堂の前まで上がる道が整備され、そのカーブの部分の庭のように整備して、真ん中に井戸公碑、右に山茶花を植え、左に石燈籠が置いてある。宮本調査では石段を上がった左手の経堂の横にあったと記されている。

この碑は、門信徒の皆さんが、「昔は芋法事があったが、戦後は営む寺も少なくなつた。せめて石碑でも建てよう」と提案されて実現したと聞いている。建設に当たって、隣の大願寺の碑を参考にしながらも、より立派なものをと奮発されたのか、巨石といつてもいいほどの大きな碑石だ。写真の最下段の石組は庭園全体の縁石なので碑の寸法には入れなかった。

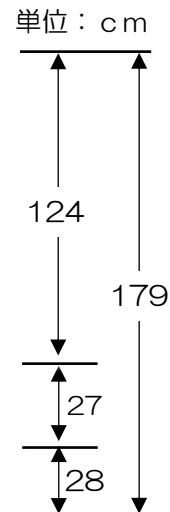
(調査日2020年11月26日)

〔建立年〕昭和30年(1955)
 〔建立者〕世話人
 〔碑石前面〕井戸正朋公碑 / 勸学源哲勝書
 〔碑石裏面〕昭和卅年五月世話人 建之 / 竹葉昇平 / 岩倉富造 / 熊谷誠之助 / 深田勘助
 〔台石〕ほかには文字なし



【04】大田市川合町鶴府 湯川氏宅横（宮本 大 04/0-列-13） **井明府追念**

所在地 大田市川合町鶴府 湯川加津子氏宅南側の丘の上 地藏堂の隣
 北緯35° 07' 31.92" / 東経132° 32' 30.10"



碑石幅最上部 38、最大 80 / 奥行き最大 28
 台石 1 段目幅 130 / 奥行 85
 台石 2 段目幅 150 / 奥行 139（組み石）

【建立年】不明
 【建立者】不明

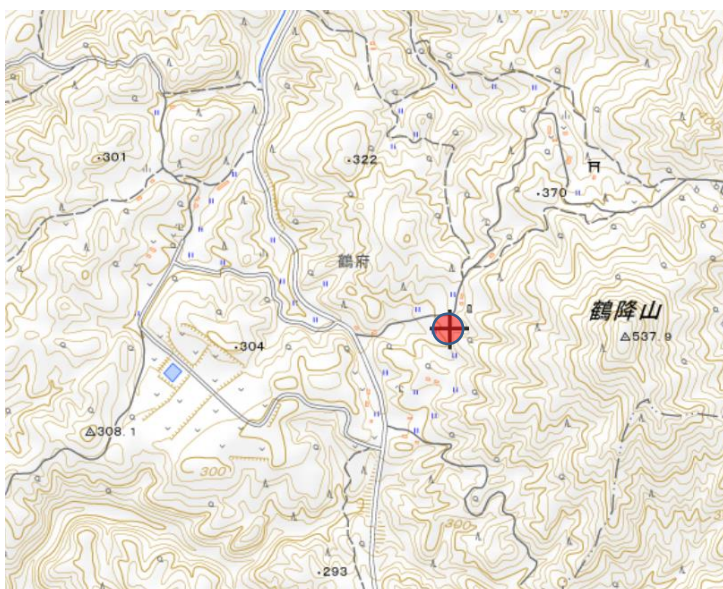
〔碑石前面〕井明府追念
 〔碑石左右・裏面・台石〕文字なし

〔調査の経過〕
 そう堅そうにない自然石だが、環境がいいのか、剥落などはない。

鶴府は大邑農道によって2分されておられ、この碑は農道の東側の湯川加津子氏宅の南側の丘の上にある。田んぼの横に細い歩道が草刈りされており、その奥のちよつとした広場に地藏とともに建てられている。昔は人が行き来した道と思われる、広場の手前の左手には石垣が残っている。以前民家があったのかもしれない。広場から奥は少し行くと行き止まりになっている。ようなので、今では井戸公碑と地藏にお参りする目的だけのために手入れがされているのだろう。碑の前には線香立てと花立てがあった。

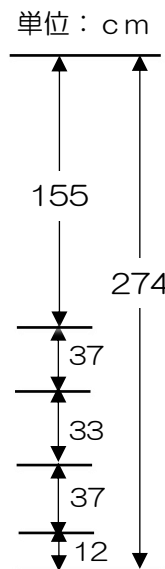
ほかに文字はないが、「井明府追念」というほかにはあまりない大きな碑名の文字に、地域の皆さんの思いが込められているように見える。

（調査日2020年4月17日）



【05】大田市川合町南 浄教寺（宮本 大02/04-11） 井戸明府記念碑

所在地 大田市川合町南 浄教寺境内（物部神社近く、川合保育園前）
 北緯35° 09' 11.53" / 東経132° 30' 46.62"



碑石幅 61 / 奥行き最大 33
 台石1段目（猫足）幅 95 / 奥行 64
 台石2段目幅 125 / 奥行 95
 台石3段目幅 158 / 奥行 127
 台石4段目幅 181 / 奥行 150

〔調査の経過〕
 碑石の幅が61^{センチ}、高さ155^{センチ}もある立派な碑だ。「紀」の文字を使った「記念碑」も珍しい。福光石だが傷みは少なくきれいに残っている。台石の文字も読みやすい。一時期倒れそうになっていたらしいが、約10年前に町内の原田安吉さんが私費で修繕されたところ住職の話。そのときに猫足も割れていたのかもしれない。現在は碑石の中心にあたる部分を下から石で支えるように修繕してある。

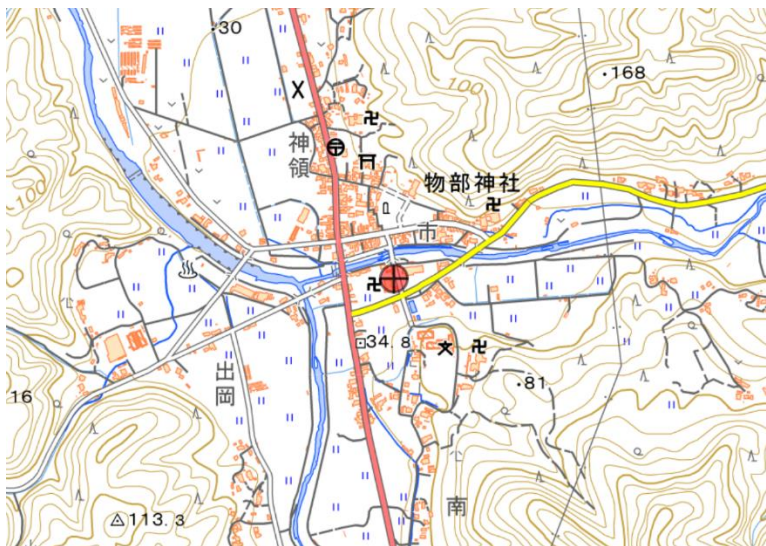
〔建立年〕明治20年（1887）
 〔建立者〕川合村

〔碑石前面〕井戸明府記念碑
 〔碑石右面〕明治二十年十一月建之

〔一段目台石前面〕川合村
 〔二段目台石前面〕世話人／岩谷勝吉／原田吉十郎／三浦幾太郎／祭田柳七

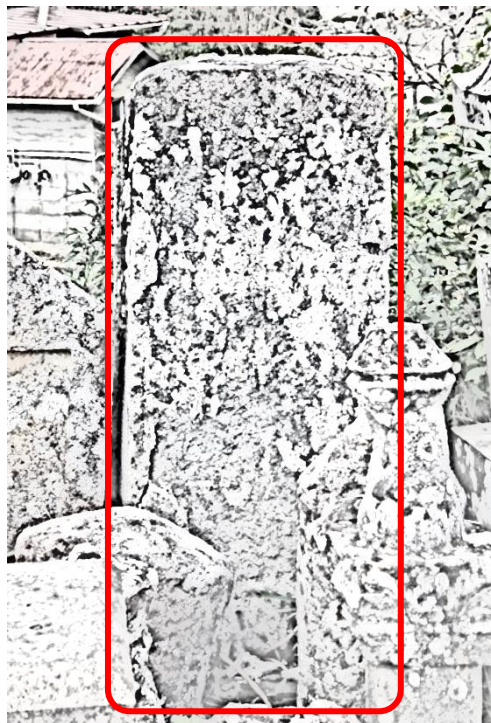
〔三段目台石前面〕岩崎盛郎／三ツ田政七／岡本啓市／松本只八／那須喜八／坂本惣十／松井文四郎／右田儀七／森脇善助／松本亀市／松本彌市／藤本米作

（調査日2020年11月25日）



【06】大田市川合町吉永下 建功寺 無縁墓地（宮本 大01-01-10） 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 大田市川合町吉永下 建功寺 無縁墓地
 北緯35°10'22.49" / 東経132°30'34.00"



単位：cm

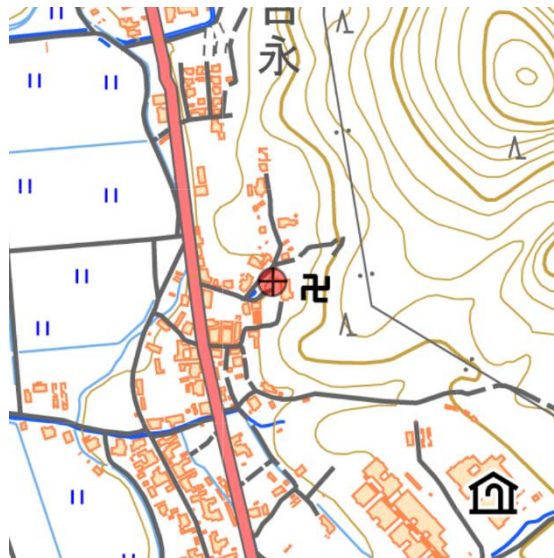
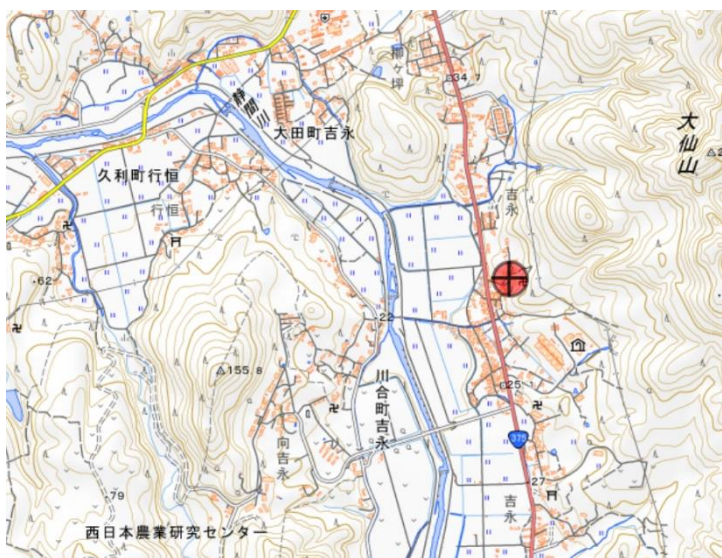
99

碑石幅40 / 奥行き最大22

（調査日2020年11月25日）

〔調査の経過〕
 宮元豊氏が井戸公碑調査を始めるきっかけとなった碑。自宅の裏にある建功寺の碑が傷んだため、台石を墓地に埋めて碑石だけを無縁墓地に残した。碑石前面の文字は今では全く読めないが、宮本調査を生かした。無縁墓地は本堂に向かって左手にあり、数十基の墓が納められている。井戸公碑はその一番奥のほぼ中央に五輪塔の隣に安置されている。幅が40センチあるので、当初は台石を含めると割と大きい方だったと思われる。今のうちに井戸公碑を訪ねて写真に残しておかなくてはなくなってしまう」と宮本氏が決意されたように、この碑のように崩れてしまいう井戸公碑が今後どんどん増えていくだろう。

【建立年】明治22年（1889）
 【建立者】不明
 「碑石前面」泰雲院殿義岳良忠居士（宮本調査）
 「碑石右面」当山十三世黒牛代
 「碑石左面」明治廿二年五月



【07】大田市三瓶町池田野畑（宮本 大 69/ロータリー-101 未確認） なし

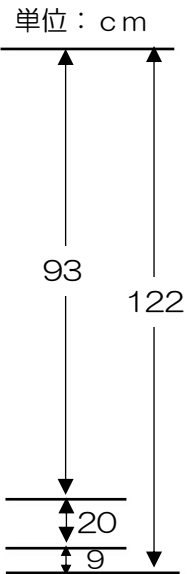
所在地 大田市三瓶町池田野畑（野畑のソリガ市の西、字ジャガ市地内の野畑～榎原への旧道（赤道）脇に「田ノ神地蔵」（調査日には地蔵本体はなし）と並んで建つ。さわらび苑裏の空き家の先の山中。北緯35° 08' 37.42" / 東経132° 33' 23.13"



台石 ↓

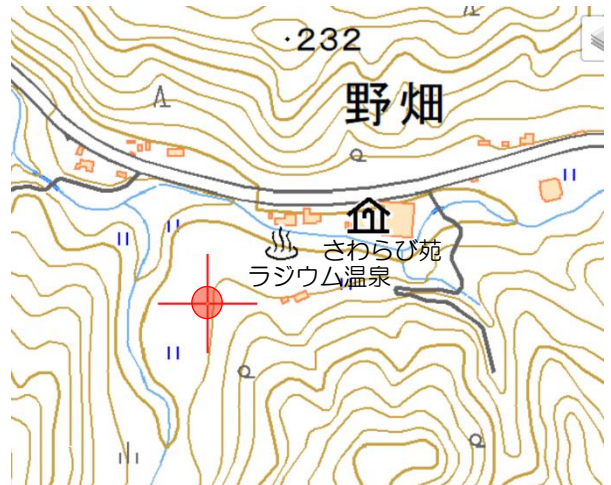
斜面の下に倒伏した碑石 ↑

写真上 現況
2段の台石が屋根の落ちた地蔵堂の横にあり、碑石は斜面の下に落ちていた。写真は発見した碑石の周囲を掘った状態。写真右は復元予想のコラージュ。



碑石最大幅 48、奥行き 15~20
台石1段目 幅 53、奥行き 33
台石2段目 幅 78、奥行 不明

【建立年】不明
【建立者】不明
【碑石・台石全面】刻字の全くない自然石
【調査の経過】
宮本台帳には大田69として存在するが台石しか発見されてない。ロータリー調査も101番だが「未確認」。三瓶町池田の中村和平さんの平成10年の調査で場所と、碑石が倒れていることが判明しており、今回元さわらび苑勤務の鳥井町の宮脇達也さんの案内で文化協会の縄田事務局長と現地調査した。
中村さんの調査票には「(地蔵と)隣接して、銘はないが芋代官井戸公の碑と伝えられる自然石の碑がある。この碑と地蔵と関係するのであろうか。伐採木搬出の際、架線の振動により倒伏した」とある。
コラージュを作成してみると、中村さんの復元想定図とほぼ同様の写真になった。
地蔵本体はどなたかがほかの場所に移動したのかもしれない。現在は山の中だが、以前は碑の下に道があり、人が行き来していたと思われる。
(調査日 2019年3月26日)



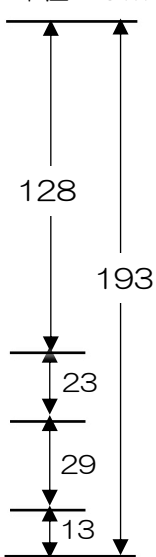
【08】大田市三瓶町小屋原 徳善寺前（宮本 大 63/□-列-06） 井明府追念

所在地 大田市三瓶町小屋原 徳善寺前

北緯 35° 09' 16.56" / 東経 132° 35' 36.49"

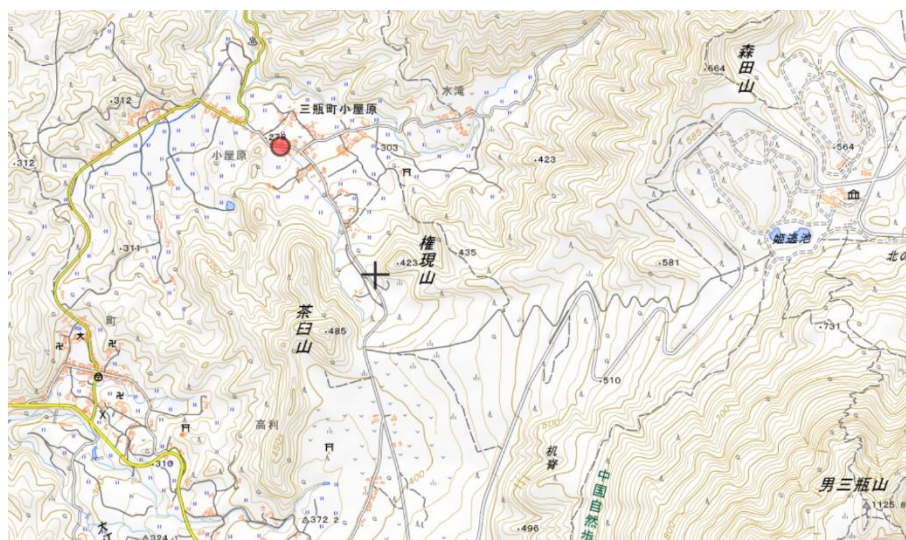


単位：cm



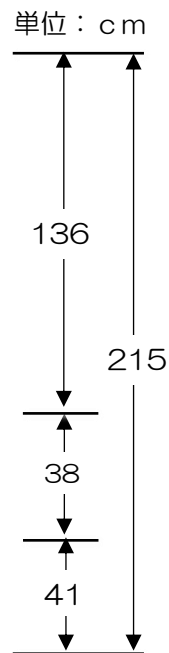
碑石幅 37 / 奥行き 27
 台石1段目幅 64 / 奥行き 55
 台石2段目幅 98 / 奥行き 88
 台石3段目幅 137 / 奥行き 141

【建立年】明治22年（1889）
 【建立者】世話人
 【碑石前面】井明府追念
 【碑石右面】明治廿二年
 【碑石左面】己牛十一月五日是調
 【一段目台石前面】世話人 / 和田森太郎 / 田中武七 / 松本円四郎 / 吉志友四郎 / 太田文太郎 / 山下竹市 / 住田長市 / 平井兼太郎 / 松尾與市 / 岩田亀吉
 【同左面】石工 / 墨田惣市 / 吉志久市 / 森次持市 / 松尾米市 / 多根村 / 林喜作 / 大谷亀五郎 / 森山為助
 【同右面】村中寄附 / 一金五十銭 / 熊谷吉二郎 / 一金五十銭 / 月森傳十
 【調査の経過】
 徳善寺の前の道路を挟んで向かいにある。石段を5段上がった平地に、地藏堂、牛魂碑と並ぶ。池田、小屋原の皆さんに多根の3人も協力して建てられたと思われるが、「當村中」などの文字はない。石に痛みはなく、台石の文字も読める。「井明府追念」という表記も珍しく、また、三瓶山を利用した放牧が盛んだった小屋原地区ならではの「牛魂碑」が建てられているのも特徴的だ。
 （調査日 2020年4月17日）



【09】大田市三瓶町志学東上山 専勝寺（宮本 大66/□-列-09） 井戸正明公碑

所在地 大田市三瓶町志学東上山 専勝寺参道入口
 北緯35°06'20.00" / 東経132°39'25.64"



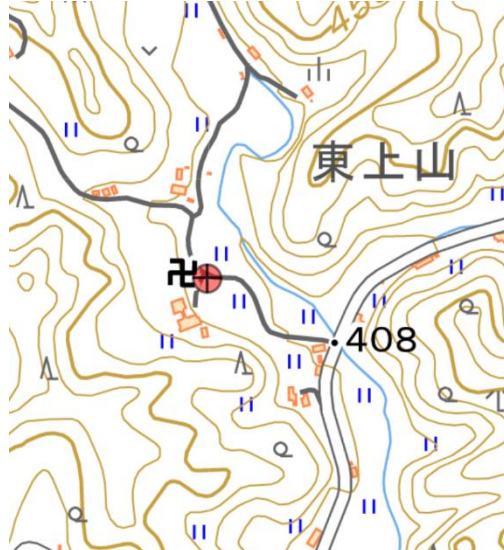
碑石最大幅 75 / 奥行き最大 50
 台石 1 段目幅 106 / 奥行 89
 台石 2 段目幅 140 / 奥行 125 (左半分埋まっている)

【調査の経過】
 専勝寺の参道入口左手にある。調査の日は4月17日だったが、碑の後ろの桜が満開で、山門、本堂をバックに、美しい風景だった。自然石だが、正面以外の文字は読みにくくなっていた。軟らかい石なのかもしれない。台石も角から傷んできている。

【調査日2020年4月17日】

【建立年】昭和6年（1931）
 【建立者】佐比賣村青年団上山支部

【碑石前面】井戸正明公碑
 【碑石右面下部】大田町石工 / 政所要二郎
 【碑石左面下部】当山十五世住職 敬書
 【碑石裏面】昭和六年七月 / 佐比賣村青年団 / 上山支部
 【台石】なし

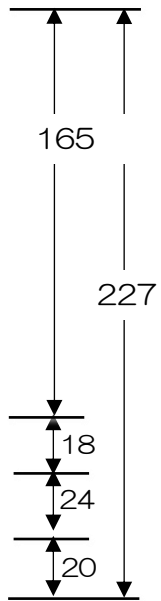


所在地 大田市三瓶町多根 宝陀寺参道入口

北緯35° 10' 15.61" / 東経132° 35' 55.70"



単位：cm



碑石最大幅 70 / 奥行最大 27
 台石1段目幅 76 / 奥行 49
 台石2段目幅 99 / 奥行 73
 台石3段目幅 126 / 奥行 105

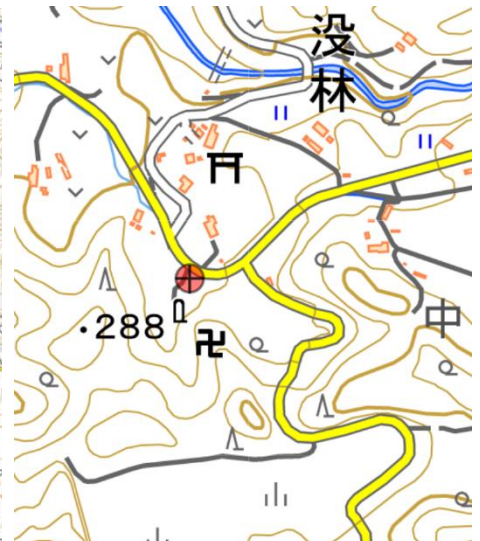
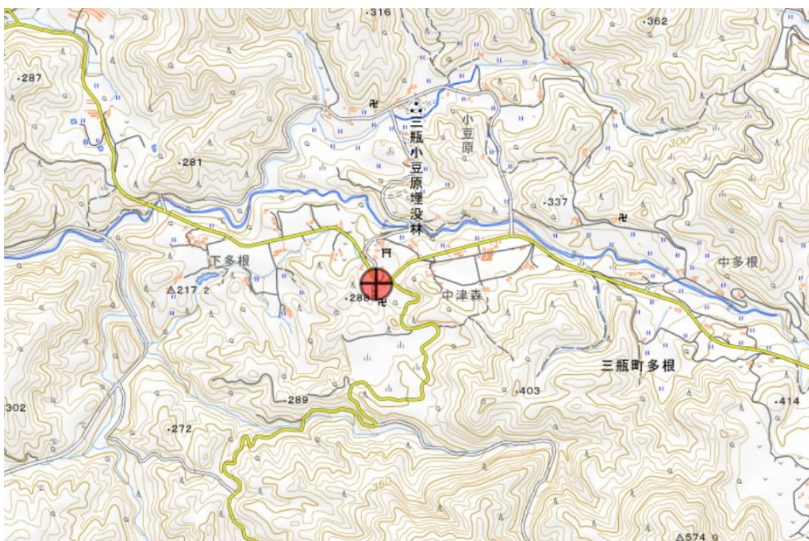
（調査日 2020年 11月 25日）

堅い素材のように見え、傷みはない。台石にも痛みはなく、彫つてある文字がはっきりと読み取れる。建立年がないのが惜しい。現在は無住になっているが、住職がおられたところには、参道に入つてすぐの場所にあるこの碑に手を合わせた後、寺に参つていた村人の姿が想像できる。

〔調査の経過〕

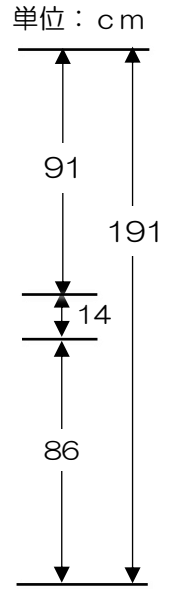
宝陀寺は三瓶埋没林公園に近く、佐比賣山神社、多根神楽伝承館の県道を挟んだ向かいにある。寺に入る左手に1段高い場所を作り、一畑薬師と某氏の碑とともに建っている。前から見ると比較的大きな三角形の碑石の形が珍しい。茶色っぽい石で、

〔建立年〕 不明
 〔建立者〕 多根中
 〔碑石前面〕 泰雲院殿義岳良忠居士
 〔一段目台石前面〕 多根中
 〔同右面〕 發起 / 寶陀寺 / 西善寺 / 森山覚五郎 / 林藤十郎



【11】大田市三瓶町野城 円城寺下（宮本 大64/ロータ-07） 井戸明府碑

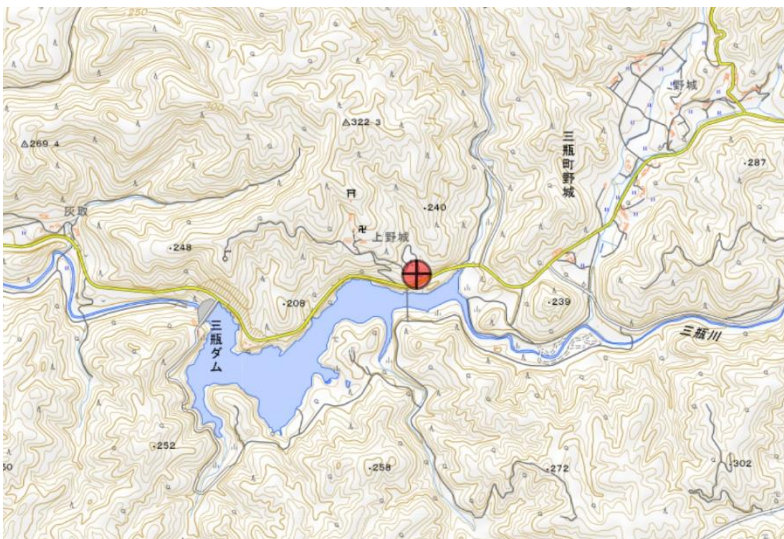
所在地 大田市三瓶町野城 円城寺下 三瓶ダム近くから円城寺に上がる道路沿い
 北緯35°10'25.96" / 東経132°34'08.46"



碑石最大幅 57 / 奥行き 33
 台石1段目幅 64 / 奥行 67
 台石2段目最大幅 155 / 奥行最大 157

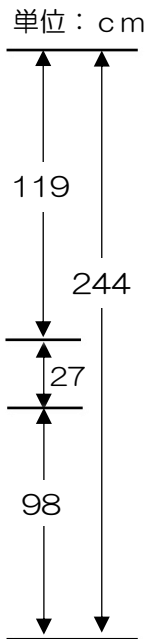
（調査日 2020年 11月 25日）

【建立年】明治18年（1885）
 【建立者】不明
 【碑石前面】井戸明府碑
 ほかに文字は読めない（建立年は宮本調査による）
 【調査の経過】
 宮本調査によると三瓶町野城の香勝寺にあったというところだが、石碑の表記、大きさが同じことから、三瓶ダムの建設に伴って廃寺となった香勝寺から移設されたと思われる。現在の場所は県道から円城寺に上がる道の途中の右カーブの左側に平地を作り、戦死した軍人の碑と、「媼石翁石の標」とともに、比較的きれいに手入れされた状態で建っている。香勝寺の碑には3段の台石があったが、現在は1段の台石の下に3段の石組の台石が組まれている。



【12】大田市富山町高原 松林寺（宮本 大20/㊦列-03） 芋代官頌徳碑

所在地 大田市富山町山中高原 松林寺参道入口（県道から参道に入ってすぐ右手）
 北緯35° 12′ 54.46″ / 東経132° 34′ 16.15″



碑石幅最上部 48、最大 65 / 奥行き最大 41
 台石 1 段目幅 125 / 奥行 63
 台座（石組）幅最大 190 / 奥行 110

（調査日 2020年4月17日
 撮影は 2014年9月7日）

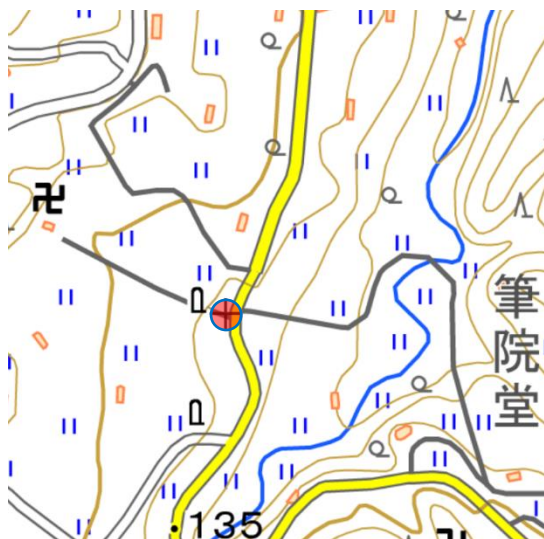
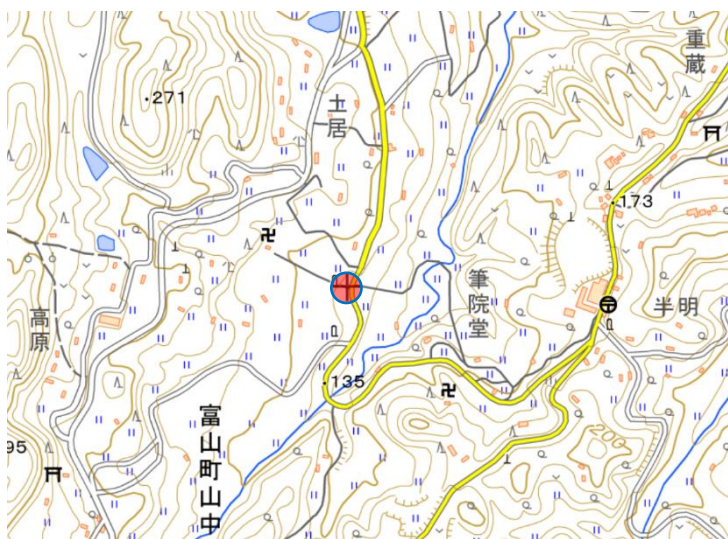
「調査の経過」非常に硬い、表面を鏡面状に加工した自然石。
 再建にあたり、珠禅住職は「芋代官井戸平左衛門正明略伝」を著している。

「碑石左・裏・台石」なし

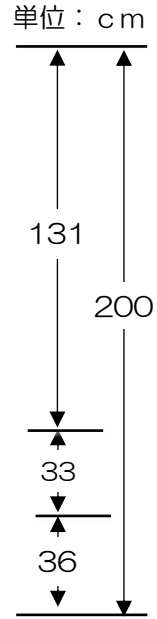
「碑石前面」芋代官頌徳碑 / 昭和四十八年春再建 松林寺十六世珠禅書

「碑石右面」碑石寄附者 島林金作 / 設計施工 林和吉 / 賛助 富山町内中

【建立年】昭和48年（1973）再建
 【建立者】松林寺



所在地 大田市富山町山中本郷 道路沿い地藏堂隣
北緯35°12'30.87" / 東経132°34'51.74"



碑石幅 40 / 奥行き最大 45
台石 1 段目幅 71 / 奥行 75
台石 2 段目幅 110 / 奥行 80

(調査日 2020年4月17日)

ミ) が供えてあつた。

「調査の経過」
道路沿い山手の1段高いところに地藏堂があり、その隣に建っている。周囲は比較的きれいに手入れされている。そう堅そうにない自然石で170年経っているが、傷みもなく、すわりと立っている。気象条件がよかつたのだろうか。1段目台石の中央に大きな文字ではつきりと「村中」と彫ってある。碑の前にはブロックのような四角い自然石が置いてあり、線香立てと花立てがある。花立てにはシビキ(シキミ)が供えてあつた。

「同右面」石工林蔵(?) 弘化/四年/未八月

「碑石左面」井戸平左衛門尉正明
「一段目台石正面」村中

「碑石右面」豊享保十八丑年五月二十六日

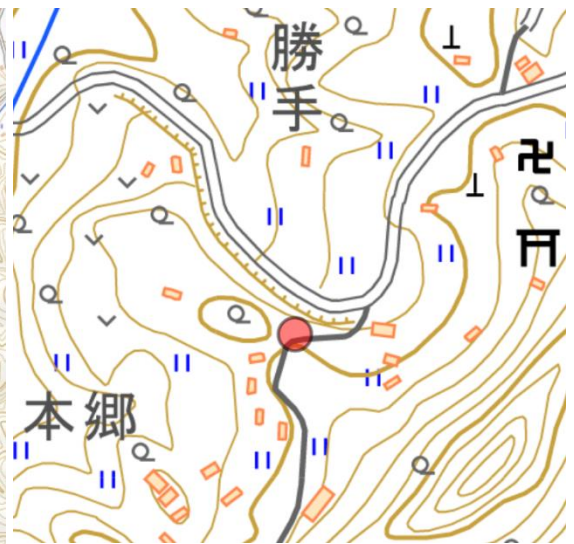
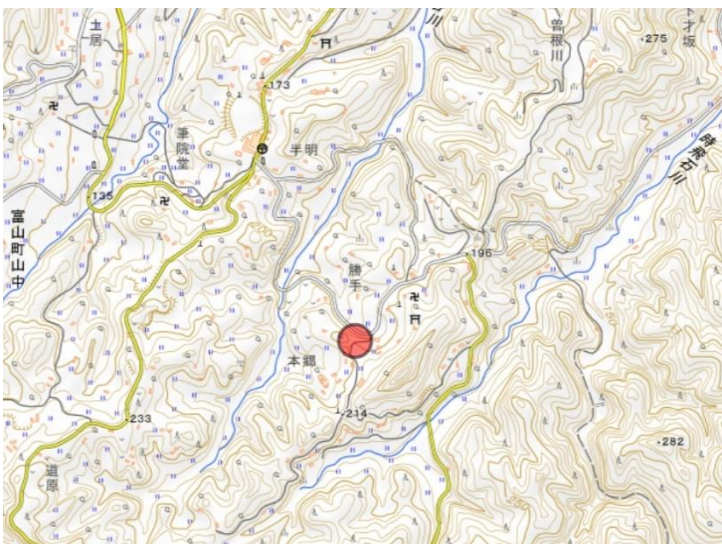
「碑石前面」泰雲院殿義岳良忠大居士

【建立者】村中

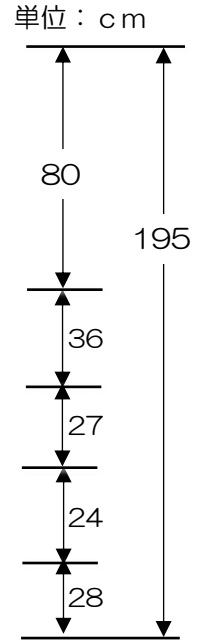
【建立年】弘化四年(1847)

【建立者】村中

【建立年】弘化四年(1847)



所在地 大田市朝山町朝倉 朝倉彦命神社境内 本殿左手
北緯35°14'56.14" / 東経132°33'54.06"



碑石 幅34/奥行34
飾り台 幅59/奥行60
台石1段目 幅77/奥行77
台石2段目 幅95/奥行95
台石3段目 幅111/奥行110

(調査日2020年4月18日
撮影は2011年2月8日)

「調査の経過」
石碑のすぐ後ろは国道9号で車の行き来もあるが、神社の境内は静寂に包まれている。本殿の左手の1段高い場所にほかの碑石と並んで立っている。福光石だが剥落もない。ただし、2018年の島根県西部地震で碑石と台石の1段目が約20度回転した。

「調査の経過」
石碑のすぐ後ろは国道9号で車の行き来もあるが、神社の境内は静寂に包まれている。本殿の左手の1段高い場所にほかの碑石と並んで立っている。福光石だが剥落もない。ただし、2018年の島根県西部地震で碑石と台石の1段目が約20度回転した。

「調査の経過」
石碑のすぐ後ろは国道9号で車の行き来もあるが、神社の境内は静寂に包まれている。本殿の左手の1段高い場所にほかの碑石と並んで立っている。福光石だが剥落もない。ただし、2018年の島根県西部地震で碑石と台石の1段目が約20度回転した。

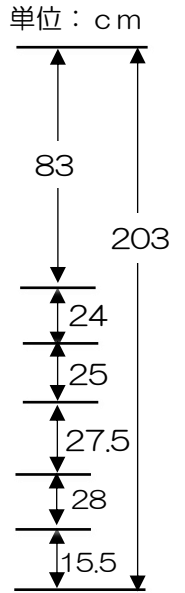
「調査の経過」

- 【建立年】不明
- 【建立者】當村中合等
- 【碑石前面】泰雲院義岳良忠居士
- 【碑石右面】維時 享保十八癸丑年/五月二十有六日
- 【碑石左面】井戸恩謝碑
- 【碑石裏面】なし
- 【一段目台石】當村中合等



【15】大田市朝山町仙山 元花雪温泉横（宮本 大19/甲-列-01） 井明府恩澤碑

所在地 大田市朝山町仙山 元花雪温泉横 市道5差路交差点
 北緯35°15'17.42" / 東経132°34'31.02"



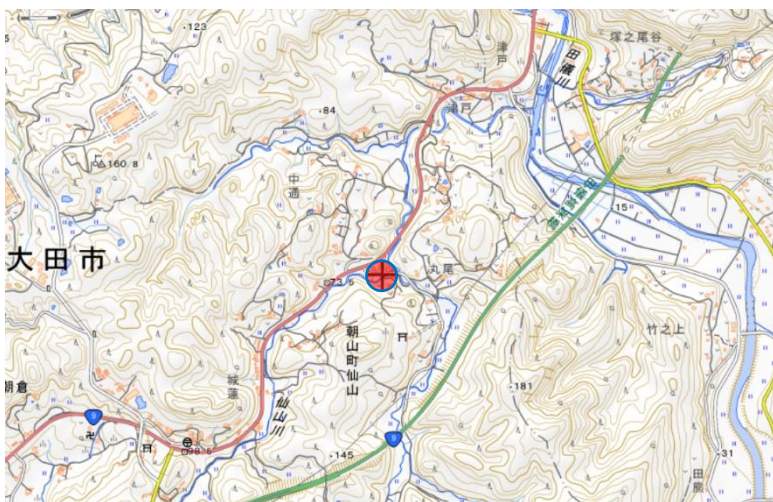
碑石 幅33/奥行24
 台石1段目 幅56/奥行45.5
 台石2段目 幅82/奥行72
 台石3段目 幅107/奥行99
 台石4段目 幅130/奥行128
 台石5段目 幅170/奥行155

台石5段目は地中に埋まっており、元は高さ30センチくらいはあったと思われる。

〔調査の経過〕
 国道9号からほど近くの市道の5差路の交差点に別の石碑と並んで立っている。近所の人に聞くと、元は別の場所にあったようだ。一番下の台石は半ば埋まっているが、台石を5段も積んだ立派な碑だ。この碑にも「村中合等」とあるので、朝倉の碑と前後して建てられたと思われる。建立年がこちらの碑に彫ってあるので、朝倉の碑の反省からとすれば、朝倉の碑がより古いことになる。
 色が黒ずんでいてわかりにくい。福光石のような石で、少し剥落もある。

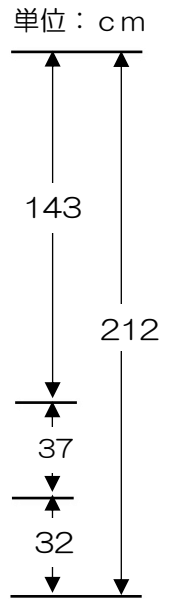
〔建立年〕安政4年（1858）
 〔建立者〕村中合等
 〔碑石前面〕井明府恩澤碑
 〔碑石右面〕皆安政四丁巳年七月廿六日
 〔碑石左面〕なし
 〔一段目台石前面〕村中合等

（調査日2020年4月18日）



【16】大田市波根町上町 波根八幡宮 (宮本 大17/□-列-05) 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 大田市波根町上町 波根八幡宮境内
 北緯35°14'34.71" / 東経132°32'04.31"



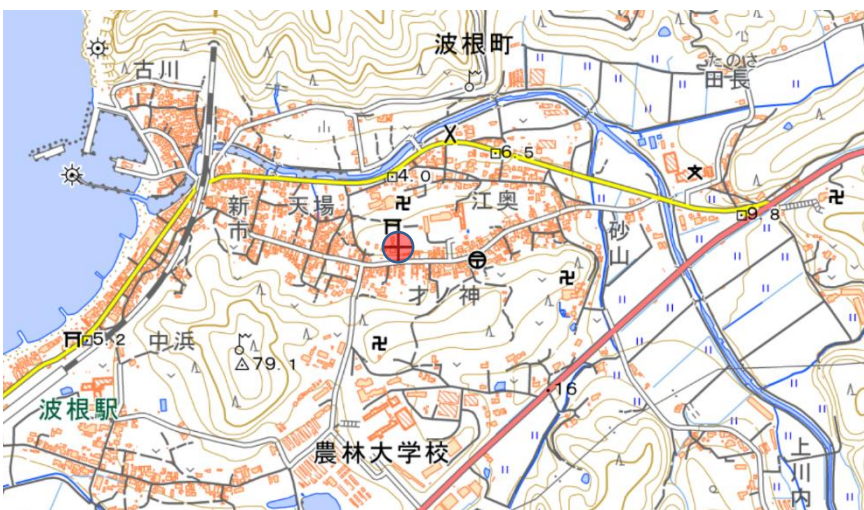
碑石幅 45 / 奥行 44
 台石 1 段目幅 73 / 奥行 72
 台石 2 段目幅 119 / 奥行 118

〔調査の経過〕
 碑の左に説明板が立つ（内容は次葉に記載）。もともと拝殿左側の高手の目につきにくい場所にあり、2018年4月の島根県西部地震で倒れたため、地元で再建実行委を組織して浄財を集め、同神社の壺倉薫宮司の配慮もあって、拝殿の右側の境内社をまとめたコンクリート製の台の上に移築された。

〔建立年〕文政3年（1820）（別資料による）
 〔建立者〕不明

〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠大居士
 〔碑石右面〕當御料前御代官／井戸平左エ門尉正□
 〔碑石左面〕享保十八癸丑年／五月二十六日
 〔台石〕二段目の右側中央の石に「施主當」の文字あり

（調査日2020年5月24日）





井戸平左衛門正明公謝恩碑

井戸平左衛門正明公は、享保16年(1731)石見銀山御料の第19代代官に任命された。60歳の高齢で、その上病気がちであった。

翌17年、近畿以西一帯は長雨や冷夏、害虫の発生にみまわれ、大飢饉となった。井戸公は御料内を踏査して現況の把握に努め、年貢米の減免、植えた領民への飯米の支給、さらには薩摩国からサツマイモを取り寄せ栽培に成功させた。西日本では1万2千人以上の餓死者があったが、銀山御料からは飢えによる死者を一人も出さなかったといわれる。

享保18年(1733)5月、兼任していた笠岡の代官所で病に倒れ、帰らぬ人となった。享年62歳。墓は笠岡市の威徳寺にある。在任期間はわずか2年弱だったが、その功績は大きく、今も「いも代官」として語り継がれている。

この碑は元々波根中町の旧荒神社境内(大丸屋の裏付近)に、村民の浄財を集めて文政3年(1820)に建てられた。その後、明治末年に波根八幡宮拝殿の西側に移されたが、平成30年4月9日の島根県西部地震により倒壊し、この地に移転再建された。

平成30年(2018)12月

井戸公碑再建実行委員会

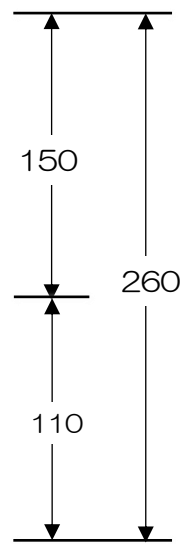
【17】大田市久手町宮の前 菟田神社 (宮本 大12/ロ-列-17) 井戸明府

所在地 大田市久手町宮の前 菟田神社境内

北緯35°14'02.03" / 東経132°30'31.49" (国土地理院)



単位：cm



石宮屋根幅 106 / 同奥行き 92
台石最大幅 168 / 奥行最大 194

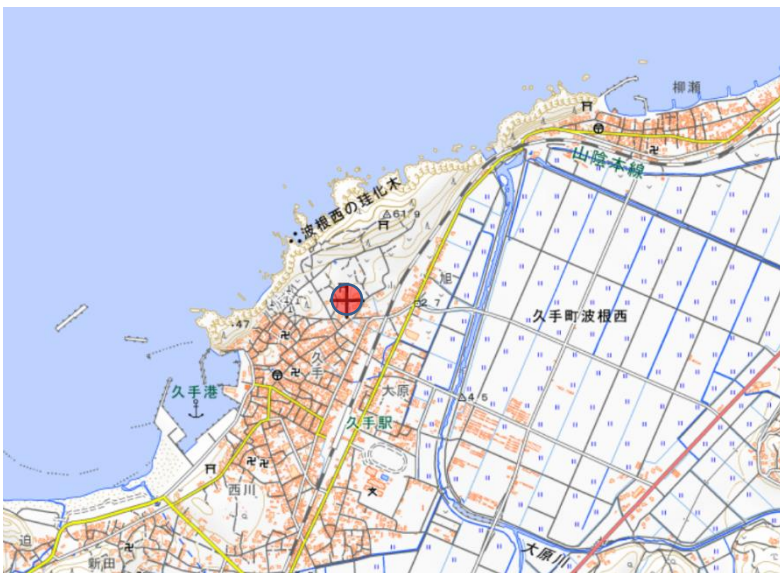
(調査日 2020年5月24日)

の家の配布されるとい
祭りの日程は寺院で営まれる芋
法事のように秋ではなく、7月
に営まれるようになった経緯は
わからないが、柳瀬ともども毎
年欠かさず祭りが営まれている
のは貴重だ。

「調査の経過」
石で造られ、台石は城積み
の立派な石宮。柳瀬の石宮と兄弟
のような関係なのだろう。こ
こでは7月25日の夜に宮の総代
などが参列して祭りが営ま
れる。以前は子どもの参列も多
く、くじ引きで当たる景品目
当ての子供も多かったそうだが
、最近はお菓子の参列はなく、
用意されたお菓子は後日近所
の子どもたちの家に配布され
るとい。

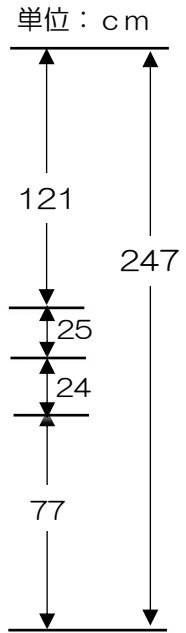
「石柱」宮の前に立つ石柱に「井戸明府」の文字あり

【建立年】平成14年(2002)修復
【建立者】不明



【18】大田市久手町寺前 観音寺（宮本 大 09/㍉-列-18） 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 大田市久手町寺前 観音寺境内
 北緯35° 13' 56.57" / 東経132° 30' 23.06"



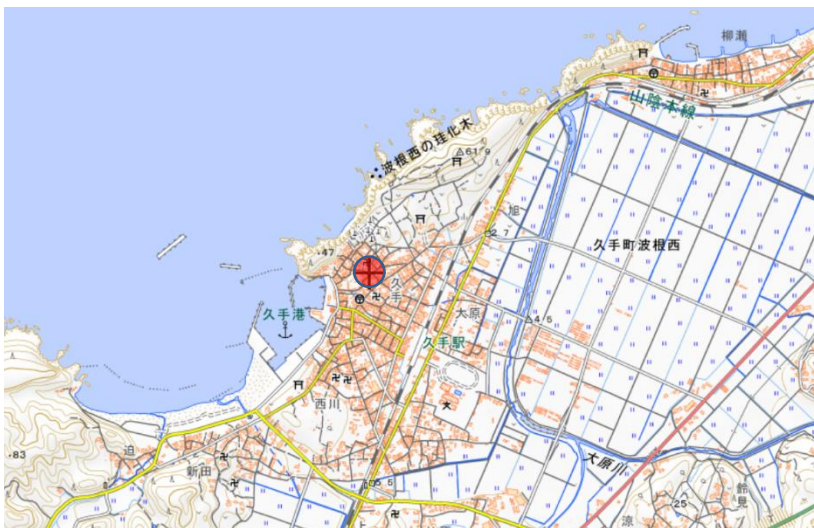
碑石幅 37 / 奥行き 37
 台石 1 段目幅 60 / 奥行 61
 台石 2 段目幅 91 / 奥行 92
 台石 3 段目幅 130 / 奥行 130 (石組み)

(調査日 2020年5月24日)

2段目の台石に盃状穴がある。

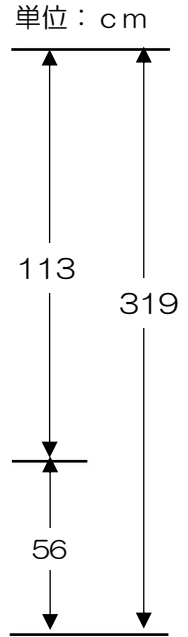
〔調査の経過〕
 久手町の中心街にある観音寺の境内にある。本堂と向い合う形で百体地藏の右側に塀とはさまれるように建っており、少し窮屈そう。碑は3段の台石を積み、一番下は3段の石組を組んだ立派なもの。石の傷みも少ない。「造主」「世名」など他では見られない言葉も彫られている。享保18年は丑年だが「子」と間違っている。

〔建立年〕不明
 【建立者】久手 / 柳瀬 / 大津
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士
 【碑石右面】享保十八子五月廿六日 / 造主 / 久手 / 柳瀬 / 大津
 【碑石左面】世名 / 井戸平左衛門尉正明公塚
 【台石】なし



【19】大田市久手町柳瀬 (宮本 大13/ローター16) 井戸明府霊

所在地 大田市久手町柳瀬 県道波根久手線とJR 山陰線との間の広場 河元寺墓地向い
北緯35°14'18.06" / 東経132°31'16.37"



石宮屋根幅 89 / 同奥行 93
台石 233 / 奥行 102

【建立年】不明
【建立者】不明

「石宮」なし
「台石」なし

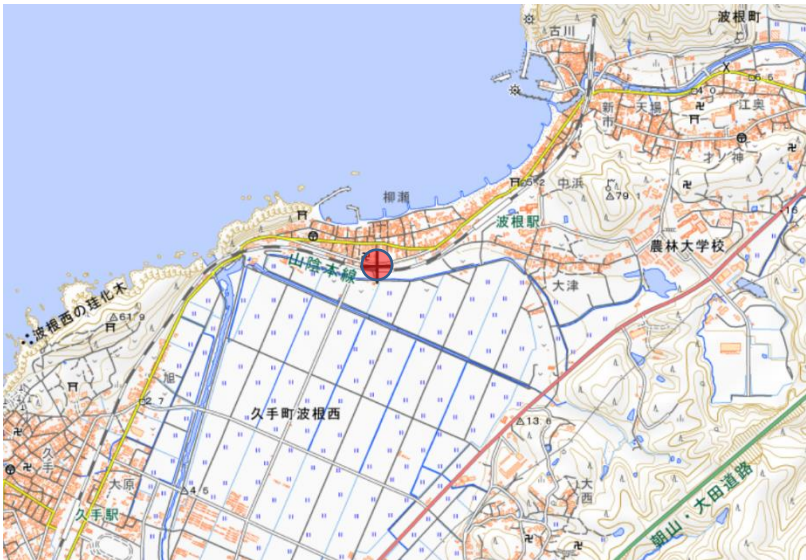
「石柱」石宮の左側に倒れている石柱に「井戸明府霊」の文字あり

〔調査の経過〕
ちようど柳瀬地区の中央部、県道とJRとの間に広場があり、中央の「三谷徹先生碑」の左に井戸公碑がある。コンクリート製だが、菟田神社の石宮とよく似ている。石宮の横に倒れている13×12×51^{センチ}の柱に「井戸明府霊」と彫られている。石宮の左右には細い脇宮のようなものが立っていたが、2018年の県西部地震で倒壊したのだろう、屋根だけが残っている。

石宮の前には2対の石灯籠と大きめの1対の狛犬が並び、聖域の雰囲気醸している。狛犬に「昭和十年」の文字あり。前の地面もきれいに掃いてあり、石宮の扉の前には賽銭もあった。

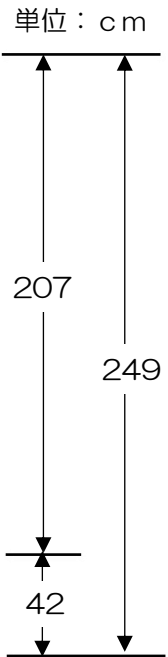
ここでは子どもからお年寄りまで地域の大勢が集まって、毎年7月26日の夜に、菟田神社の壺倉宮司を招いて祭礼がにぎやかに営まれる。

(調査日2020年5月24日)



【20】大田市久手町西川 県道三差路（宮本 大11/口-列-14） 井戸明府之碑

所在地 大田市久手町刺鹿西側 県道三差路 J R線路沿い
 北緯 35° 13' 29.48" / 東経 132° 30' 22.57"



碑石最大幅 102 / 奥行最大 70
 台石幅 165 / 奥行最大 110

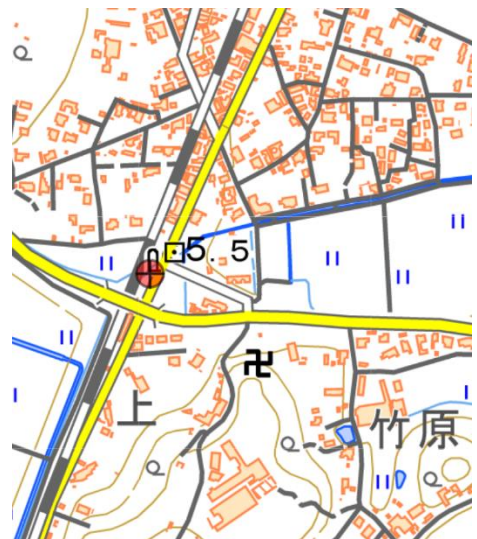
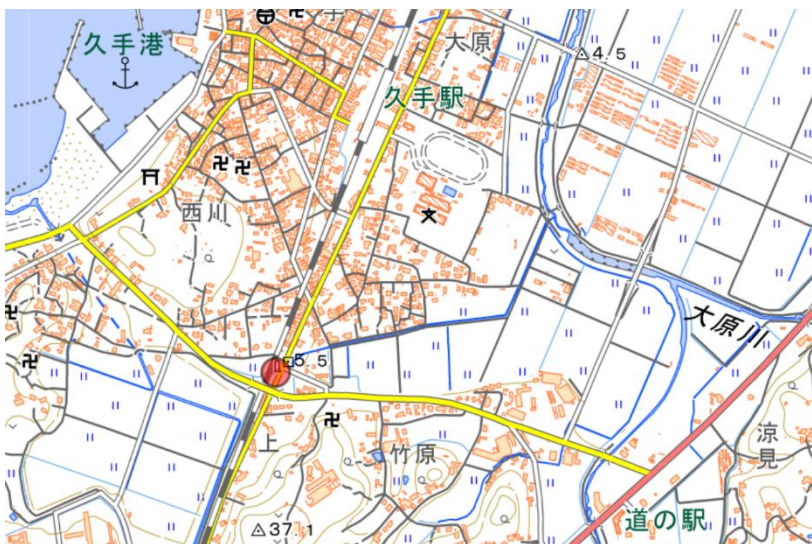
【調査の経過】
 旧国道の信号のある交差点の J R 沿いに、隣の歌碑とともに「井戸さんを見守る会」が公園として整備し、石灯籠 1 対と、擬木のテーブルと椅子を設置。碑の周囲には玉砂利が敷かれている。横に植えられた桜は直径 90 ㎝を超えており、満開時には 2 つの碑が桜の花に抱かれる。別の資料から、7 老人は岩谷竹三郎（定屋）、中村和十郎（工屋）、森井和七（吉野屋）、品川利兵衛（品川）、中村常四郎（竹中屋）、渡邊茂十（釜屋）、渡邊亀作（吉本屋）とわかっている。

毎年 7 月下旬に祭りを行っている。以前は小学生を集めてにぎやかだったが、今では会のメンバーが中心で集まり、刺鹿神社の宮司が祝詞を上げて井戸さんの遺徳をしのぶ。

（調査日 2020 年 11 月 25 日）

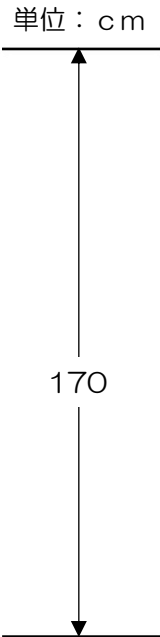
【建立年】明治 39 年（1906）
 【建立者】七老人

【碑石前面】井戸明府之碑
 【台石前面】明治 / 三十 / 九年 / 八月 / 建之 / 発起 / 七老人 / 石工磯八



【21】大田市久手町西川 県道三差路（宮本 大14/ロ-列-15） 井戸公追善（歌碑）

所在地 大田市久手町刺鹿西側 県道三差路 JR線路沿い
 北緯35°13'29.52" / 東経132°30'22.63"



碑石最大幅 63 / 奥行き最大 30

【建立年】大正4年（1915）
 【建立者】岩谷

「碑石前面」井戸公追善 / 君の恩徳を感じて / 飢ゆることしらて / うき世にくらすなり / 君の功の影に住む身ハ / 大正四之とし 建之 / 岩谷性

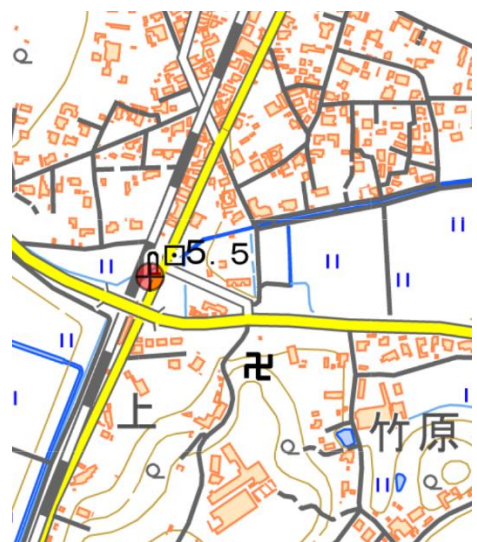
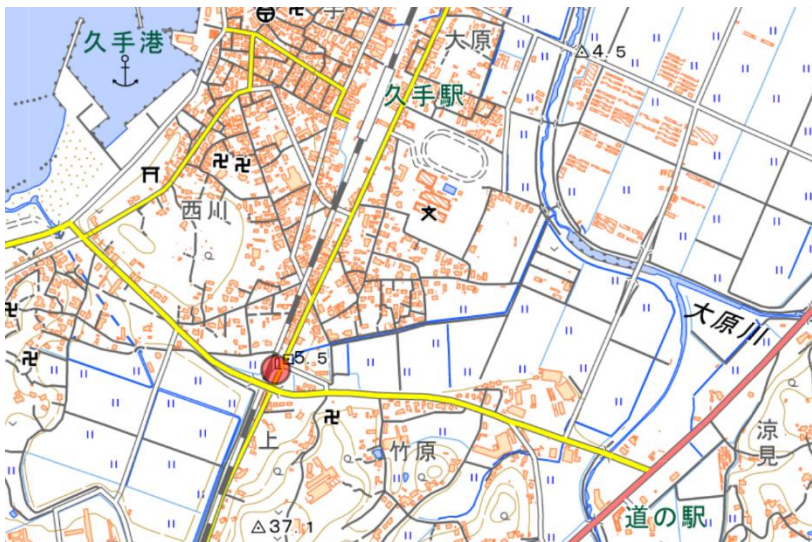
【その他】文字なし

「調査の経過」
 旧国道の信号のある交差点のJR沿いに、隣の井戸公碑とともに「井戸さんを見守る会」が公園として整備し、石灯籠1対と、擬木のテーブルと椅子を設置。碑の周囲には玉砂利が敷かれている。横に植えられた桜は直径90cmを超えており、満開時には二つの碑が桜の花に抱かれる。

この歌碑は隣の井戸公碑の9年後の建立で「岩谷」がだれかはわからないが、井戸公碑を建立した七老人の中に岩谷竹三郎（定屋）という名があるので、その人かもしれない。

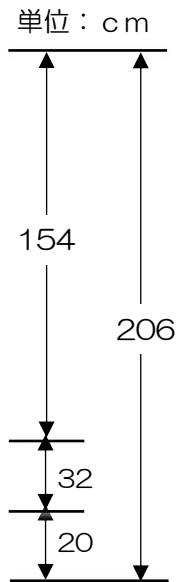
国道9号から久手町に入ってくるとT字路の突き当りに井戸公碑とこの歌碑が目に入る。特に桜の季節には多くの人が目を止めていると思われる。

（調査日2020年11月25日）



【22】大田市久手町刺鹿 円光寺（宮本 大10/㍻-列-19） 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 大田市久手町刺鹿 円光寺参道入口（車道参道と階段参道の間 羅漢堂隣）
 北緯35° 13′ 08.50″ / 東経132° 30′ 47.86″



碑石幅 37 / 奥行 37
 台石 1 段目幅 76 / 奥行 75
 台石 2 段目幅 94 / 奥行 95

（調査日 2020年4月18日）

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠大居士
 【ほか】文字はなし

〔調査の経過〕
 福光石でとどころ剥落がある。正面の碑銘以外に文字が全く彫られていないので、建立年や建立者がわからない。羅漢堂を挟んで右側に同様の大きさで同様のしつらいの「南無妙法蓮華経」の碑が対のように建っているが、こちらは「寛保2年（1742）」とある。井戸公碑はこの碑に倣って、後年建てたものだろう。

